



地域の祭りの由来を英語で発信

国際文化学科 小林ゼミ

本学が包括連携協定を結んでいる日置市の扇尾地区で毎年開催されているお祭り「深固院祭り」の由来を国内外に発信するための英語版パンフレットの作成に、国際文化学科の英米言語文化研究室（小林潤司ゼミ）の学生たちが取り組みました。

扇尾地区では毎年秋に史跡「深固院跡」の周辺で深固院祭りを開催しています。昨年はコロナ禍で祭りも中止に。同地区との交流活動に取り組んでいる小林ゼミの学生たちが地区を訪れる機会も減ったことから、コロナ下でも可能な交流のかたちとして、祭りの由来を記した英文パンフレット「深固院祭りと深固団子の由来」(Origins of the Shinko-in Festival and Shinko dumplings)を作成することにしました。

古くから継承されてきた田植え踊り「虚無僧踊り」が1950年代に担い手不足で中断するなど、地域の伝統行事が衰微していく中で、1993年に地域住民の熱意



で、地区外からも多くの参加者を集める深固院祭りが始まるまでの経緯を、事情を知る地区住民が書き下ろし、2年生の弓場美来さん、3年生の一丸千紗さんと吉池蘭さんが分担して英訳、ゼミの指導教員である小林潤司教授と国際文化学科のデビッド・マクマレイ教授が校閲して完成しました。

英訳を担当した学生たちによると、「最初は人名、地名などの固有名詞の読み方もわからないものがあり、英語での表記に迷いました」(一丸さん)、「日本語の原文のニュアンスを生かした英語にするのに苦労しました」(弓場さん)、「日頃読んでいる英語の文献とはまったく違うジャンルの文章だったので、難しかったです。勉強になりました」(吉池さん)。地域の伝統行事や歴史について知るとともに、英語力を高める貴重な機会になったようです。



鹿児島市高齢者の安全対策委員会に参加

社会福祉学科 岩崎ゼミ

鹿児島市が取り組むセーフコミュニティの1分野である「高齢者の安全対策委員会」が10月27日に鹿児島市教育総合センターで開催され、岩崎ゼミの4年生3名が学生オブザーバーとして参加しました。委員会には、保健・福祉および医療関係者、安心安全のための地域活動を行う団体の方々、行政の方々の参加がありました。

委員会ではこれまでに、高齢者の救急搬送の中で最も多い「高齢者の転倒・転落」に対する予防のための対策について検討し取り組んできましたが、今回は、同じく救急搬送の上位を占める「誤飲・誤嚥、窒息」をテーマに、その原因の分析と対策についての検討がなされました。窒息の要因として嚥下機能の低下があ

げられ、口腔体操やだ液腺マッサージ、口腔清掃の方法を地域の高齢者の方々に身につけていただくよう「口腔機能低下予防教室」を実施し、その効果を評価していくことになりました。これらの活動は、飲み込む力、嚙む力の維持・向上につながり、結果的に窒息の予防につながります。意見交換では、食生活改善推進員の方から、行政の取り組みに加え、自分たちが地域で独自に行っている誤嚥予防の活動も組み込めないかとの提案もありました。

地域で生活される高齢者の方々の安心安全を守るため、行政と地域の方々が活発に意見交換をされている場に同席させていただき、改めて、協働体制や地域力の重要性について考える機会になりました。

岩崎ゼミ4年：尾ノ上駿之介、藤元紀代香、大窪佳奈子

地域住民対象の災害に備える教育プログラムを初開催



近年の自然災害の増加や激甚化を正しく理解し、対応する力を身につけようと、地域住民対象の教育プログラム「災害時の対応を学び、災害に備える」が、2回の連続講座(10/2, 10/16)として本学で初めて開催されました。防災士で鹿児島市職員の山内博之氏と本学福祉社会学部児童学科の帖佐尚人准教授を講師に迎え、地域住民約30名と児童学科の学生5名が参加。

1回目の防災講話では、静岡県熱海市で発生した土砂災害や熊本県人吉市の球磨川の氾濫、東日本大震災などの近年における自然災害の実例をもとに、それぞれの自然災害のメカニズムを分かりやすく解説するとともに、安全に避難するためのタイミングなどについての具体的な講話がなされました。また、図上訓練で

は5班に分かれて、災害発生予測日の4日前から自分自身がとるべき防災行動を整理し、グループ内で意見交換を行いました。

2回目は「防災のためのポイント解説」と題した講話と「避難所生活づくりの実践的・体験的学習」として、段ボールベッドの組み立てや、避難所で使用する簡易トイレの使用法などを体験しました。

参加者からは、「初めての図上訓練だったが、災害に備える対策を時系列に考えることができた」「声掛けの言葉や表現を分かりやすくする工夫、避難所のレイアウトなど参考になった」などの感想が寄せられました。

最後に、2回の講座を受講された23名に、「教育プログラム受講証明」を授与しました。



地域おこしに取り組む鹿児島国際大学の学生らと住民
＝鹿児島市花尾町



開村式は地元商工会や奉仕団体のメンバーが集まり、学生たちに地域行事への参加を要望した。花尾地域コミュニティ協議会の林正教会長(79)は「高齢化が進む地域だけに、建物の再利用をはじめ、若い人たちが定期的に足を運んでくれるにぎわいになる」と歓迎した。

詰め所を使った活動内容は今後決めていくが、サークルのSNSを使った郡山の情報発信などを進めていく考えだ。船津壮馬さん(20)は経済学部2年。IIは「地元と地元外の人たちをつなげる役割を担えれば」と話した。(山田大真)

鹿国大「おこしんちゅ」活動。2013年度から郡山の花尾地区で住民と米作。瓢箪村は1990年に、りに励んだり、地域の伝統「大平集落の老人クラブが結芸能「大平獅子舞踊り」に成したミニ独立国。ヒヨウ加わたりしていた。最近 タンの栽培や加工販売に取は、郡山の食材を生かしたり組んでいたが、メンバー

鹿国大「おこしんちゅ」

おこしんちゅは約30人が 弁当開発にも取り組んでいる活動。2013年度から郡山の花尾地区で住民と米作。瓢箪村は1990年に、りに励んだり、地域の伝統「大平集落の老人クラブが結芸能「大平獅子舞踊り」に成したミニ独立国。ヒヨウ加わたりしていた。最近 タンの栽培や加工販売に取は、郡山の食材を生かしたり組んでいたが、メンバー

郡山の魅力 学生発信

元瓢箪村(花尾町)に拠点

郡山地域の活性化に向けて、住民らと意見交換す鹿児島国際大学の学生ら II鹿児島市花尾町



南日本新聞 (2021年11月29日掲載)